

今までは、働くことと私生活のバランスが言われていました

が、これからは、働くことと同時にいかに学校へ行つて教育に関わるか、さらには、いかに地域社会のためになるかを考えることが大事です。従業員が学校へ行く。教育に関わる。自分の子どもの事だけでなくPTAになつて学校にどんどん入りする。PTAの会員として先生と一緒に掃除をしようと言えばどんどん掃除の活動が学校に広がるでしょう。京都では初めはなかなか学校に入れませんでしたが、PTAの立場から広げてくださいました。組織から組織ではなく、従業員さんが親となり、地域住民となつて掃除の輪を広げていくのが一番早いですね。学校や子どもを中心にして、子どもたちをどう育てるのか、環境をどう作るのかということをおも先生も地域住民も一緒になつて取り組む。子どもは夫婦のかすがいいであり、地域のかすがいいでもあるのですから、子どもたちのために、子どもた

ちと一緒にやれる雰囲気がある動に出てくればいいですね。

鍵山 今日の素晴らしい体験発表に到達するまでに我々日本は何年かかりましたか？でも、実際に台湾は五年でその領域にこられましたね。今までは、活動をいかに普及するかというスピードを重視してきましたが、これからはスピードをダウンして真実を伝えていくことにシフトしていかなければいけません。つまり、掃除を通して学んだいろんな知恵をいい事に使う、いい方向に使うようにしていかなければいけないのです。知恵は道具と同じで、使い方によっては凶器にもなります。ですから、これからは門川教育長が言われたように、エデュケーション（教育）からパブリック（公衆）へ芯から向けて、エネルギーを注いでいきたいと思えます。

ローマ帝国の「ローマ人の物語」には、ローマ帝国が繁栄していた間は、ローマ人はプブリカ（パブリックの語源）

といつて公を最重点課題にし、非常にエネルギーがあつて鎮圧した地域の政治までも比較的におさまっていたと書かれています。しかし、富を集めてみんなが勝手なことを言い始めると、たちまち衰退し滅びたというわけです。いかに、このプブリカが大事かということ。この掃除に学ぶ会の運動がずっとパブリックの方向へ向かっていただくことを願っています。



田中 日本では、あれだけ治安のよくなかった新宿歌舞伎町で街頭清掃が定着し、それが名古屋や関西へと飛び火しました。わずかな人が始めた事が全国へ広がりをみせているのです。このように、いい活動がベースとなつて、地域の条例にも生かされていく時代が訪れそうですね。

本日はありがとうございます。